

問4 システム開発の監査に関する次の記述を読んで、設問1～4に答えよ。

K社は自動車部品メーカーであり、内部監査部にシステム監査室が設置されている。システム監査室では、近年の業務量の増大から、システム監査担当者を増員することになり、システム開発部のS氏が配属された。S氏は、入社以来、一貫してシステムの企画、開発を担当してきたが、システム監査については全く経験がない。

〔監査対象の選定と監査計画概要の策定〕

S氏はシステム監査室のE室長から、システム監査対象を選定し、監査計画の概要を作るように指示された。具体的には、最近カットオーバーしたシステムのうち、一定規模以上の開発が行われたものを対象に、開発が適切に行われたかどうかについて、コントロールの整備状況と運用状況を評価する。

まずS氏は、候補となるシステムを選定し、開発の期間、工数、業務上の重要性などの観点から比較表を作成し、スコアリングによる評価を行った。評価の観点やスコアリング手法は、E室長からの助言を基にしている。その結果、生産管理システムと受注管理システムが同スコアとなった。S氏は、異動の直前に生産管理システムの開発に深く関与しており、かつての部下が現在も同システムの保守を担当している。そこでS氏は、システムについても保守の担当者についても熟知している生産管理システムを、監査対象に選定した。

次にS氏は、監査計画の概要を作成した。今回の監査は、対象部門に事前に通知しない抜き打ち方式で行うことにした。S氏は、システム開発部に所属していたときに、抜き打ち監査で多くの指摘を受けた経験があり、効果的な方法と考えたからである。

これらについてS氏がE室長に説明したところ、幾つかの問題点があることを指摘された。最終的にE室長は、受注管理システムの監査を指示した。

〔ヒアリング結果〕

受注管理システムは、旧システムが業務処理量の増大と度重なる機能追加に対応できなくなったので、再構築をして3か月前にカットオーバーした。

S氏は、システム監査室が使用しているシステム監査チェックリストを基に、受注管理システムについてヒアリングを行い、その結果を表1にまとめた。

表1 S氏が作成したコントロールの状況（抜粋）

コントロール目標	項番	コントロールの状況
Ⅰ．要件定義書は、開発担当責任者及びユーザ部門責任者によって承認されること	I①	要件定義書は、K社のシステム開発標準を基に作成された受注管理システム開発手順（以下、開発手順という）に従って作成されている。
	I②	要件定義書は、受注管理システムの開発担当責任者であるシステム開発部第三課（以下、開発三課という）のX課長が承認した後、受注管理システムのユーザ部門責任者である製品営業部営業課（以下、営業課という）のY課長にコピーを送付している。
Ⅱ．テスト計画が策定され、テストが適切に実施、管理されること	II①	テスト計画は開発手順に従って策定され、X課長とY課長が承認している。
	II②	ユーザ受入テスト（UAT）前の各テスト工程は開発手順に従って実施され、X課長が実施結果を承認している。
	II③	テスト段階で発見された問題点のすべてについて、原因が究明、解決されている。
	II④	Y課長は、UATの実施結果の内容が適切であることをレビューした上で承認している。
Ⅲ．システムを連続運転するための信頼性設計が行われ、かつ、適切にテストされること	III①	要件定義に基づき、サーバの冗長化、ディスクのRAID構成及びネットワークの二重化が設計されている。
	III②	サーバ、ディスク及びネットワークの障害テストを実施し、冗長化が有効に機能することを確認している。また、その結果をX課長が承認している。
Ⅳ．業務処理量を見込んだシステムの容量設計及び処理性能設計が適切に行われ、かつ、テストされること	IV①	業務処理量の見積りは、過去の実績データを基に開発三課が実施している。
	IV②	見積りに基づいて設計を行い、ベンダの協力を得て机上シミュレーションを実施している。
	IV③	テスト工程において、IV①で見積もった業務処理量に基づいて負荷テストを実施している。
Ⅴ．移行計画が策定され、データ移行などが確実に実施されること	V①	移行計画は開発手順に従って作成され、X課長が承認している。
	V②	移行計画に基づき、開発三課と営業課が合同でリハーサルを実施し、発生した問題点に対応できる移行計画に修正した後、X課長とY課長が承認している。
	V③	移行実施後に、データが適切に移行されていることを、開発三課及び営業課の担当者が確認し、X課長とY課長がその確認結果を承認している。

表1の作成過程において、S氏は、E室長に次のように報告した。

“システム監査チェックリストには、移行計画はユーザ部門によるレビューを受けているかという項目があるが、受注管理システムでは営業課のレビューが実施されていないので、コントロールの不備と考えられる。”

それに対して E 室長は、“リスクを考えると、この状況は必ずしも不備とは言い切れない”と指摘した。むしろ表 1 には、S 氏が報告したものとは別に、コントロールの不備があると指摘した。

〔運用状況の評価〕

S 氏は、表 1 に挙げられたコントロールが有効に実施されているかどうかについて、運用状況の評価を行うことにした。表 2 は、表 1 中の項番Ⅱ①～④のコントロール状況に対して、S 氏が考えた監査手続の抜粋である。

表 2 を見た E 室長は、S 氏に対して、監査手続として不十分なものと指摘した。

表 2 S 氏が考えた監査手続（抜粋）

表 1 中の項番	監査手続
Ⅱ①	テスト計画が開発手順に従って作成されているか、及び X 課長と Y 課長が承認しているかを、テスト計画を閲覧して確認する。
Ⅱ②	実施内容が開発手順に従っているか、及び X 課長が承認しているかを、各テスト工程の実施結果を閲覧して確認する。
Ⅱ③	テストで発見された問題点が漏れなく解決されていたかを、テスト担当者に質問して確認する。
Ⅱ④	Y 課長が承認しているかを、UAT の実施結果を閲覧して確認する。

設問 1 〔監査対象の選定と監査計画概要の策定〕において、E 室長が S 氏に指摘したと考えられる問題点を二つ挙げ、それぞれ 40 字以内で述べよ。

設問 2 〔ヒアリング結果〕において、E 室長が S 氏の報告内容は必ずしも不備とはいえないと指摘した理由を、45 字以内で述べよ。

設問 3 〔ヒアリング結果〕において、E 室長は、S 氏が挙げたものとは別に、コントロールの不備があると指摘した。表 1 中の該当する項番を挙げ、E 室長が指摘したと考えられる内容を、35 字以内で述べよ。

設問4 （運用状況の評価）の表2において、E 室長が指摘した、不十分と考えられる
監査手続に対応する“表1中の項番”を挙げ、その理由を、50字以内で述べよ。